



OUT THERE Itoshima 志摩園だより

2016. 1. 31発行
社会福祉法人
志摩会
第50号

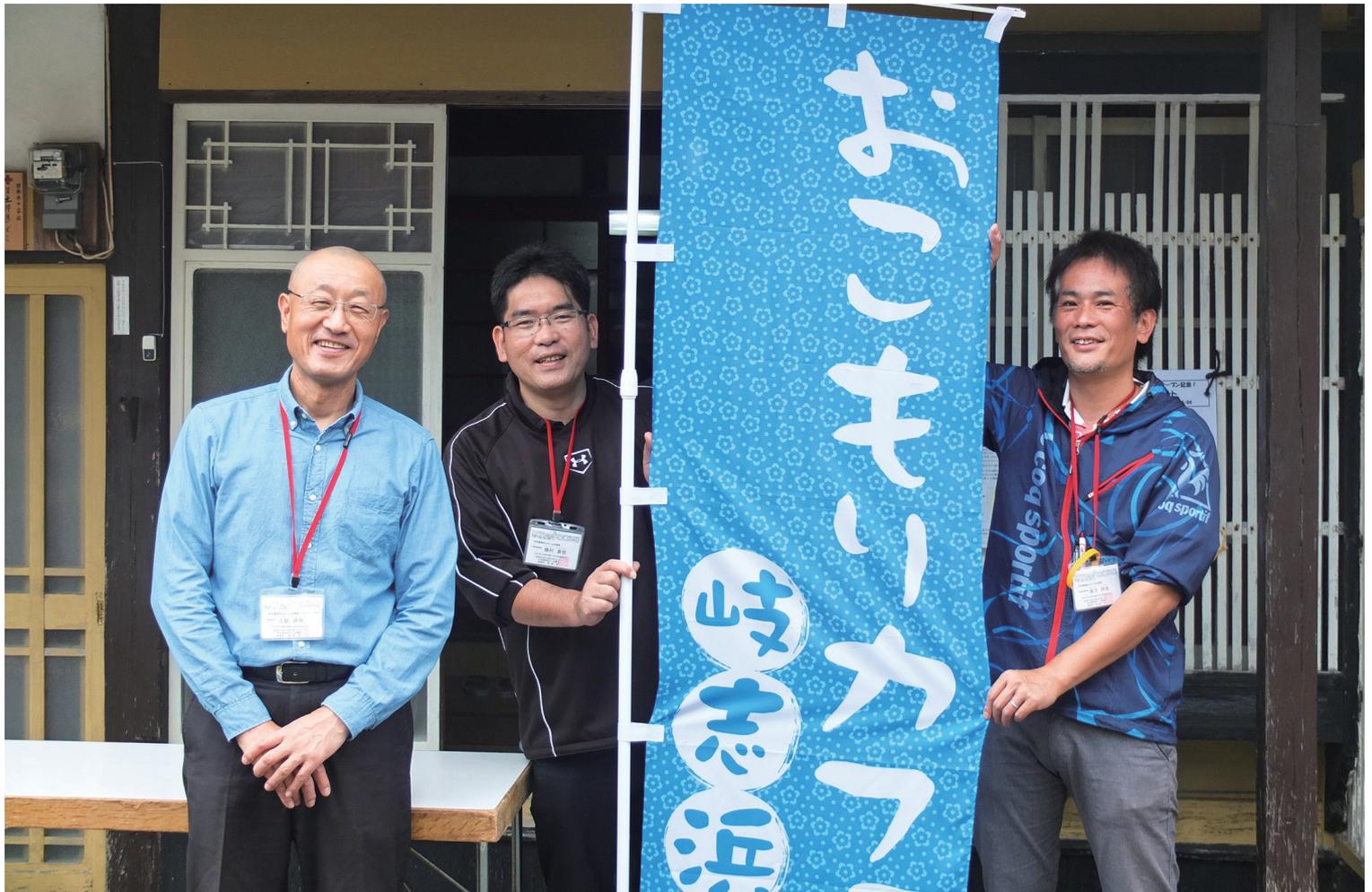
福岡県糸島市志摩久家2527番地の2
TEL092-328-2121
E-mail shimakai@proof.ocn.ne.jp
<http://www.shimaen.or.jp>

特別養護老人ホーム志摩園
ショートステイ
デイサービス
ケアプラン
配食サービス

小規模多機能型住宅
介護

糸島市志摩地域包括
支援センター

地域貢献：オレンジ志縁隊・げんき志縁隊・せいかつ志縁隊、たまり場岐志・桜野・
姫島茶所、おこもりカフェ岐志浜



カフェ内覧会の朝

笑う門には福来る (Fortune comes in by a merry gate)

今日は、どんな一日になるのだろう、想像するだけでわくわくします。
賑やかなことがお好きな人も、内向的な人も心底から笑えるエピソードのあるカフェがいいかな …

2015～2016年度 志摩会の社会貢献活動体系

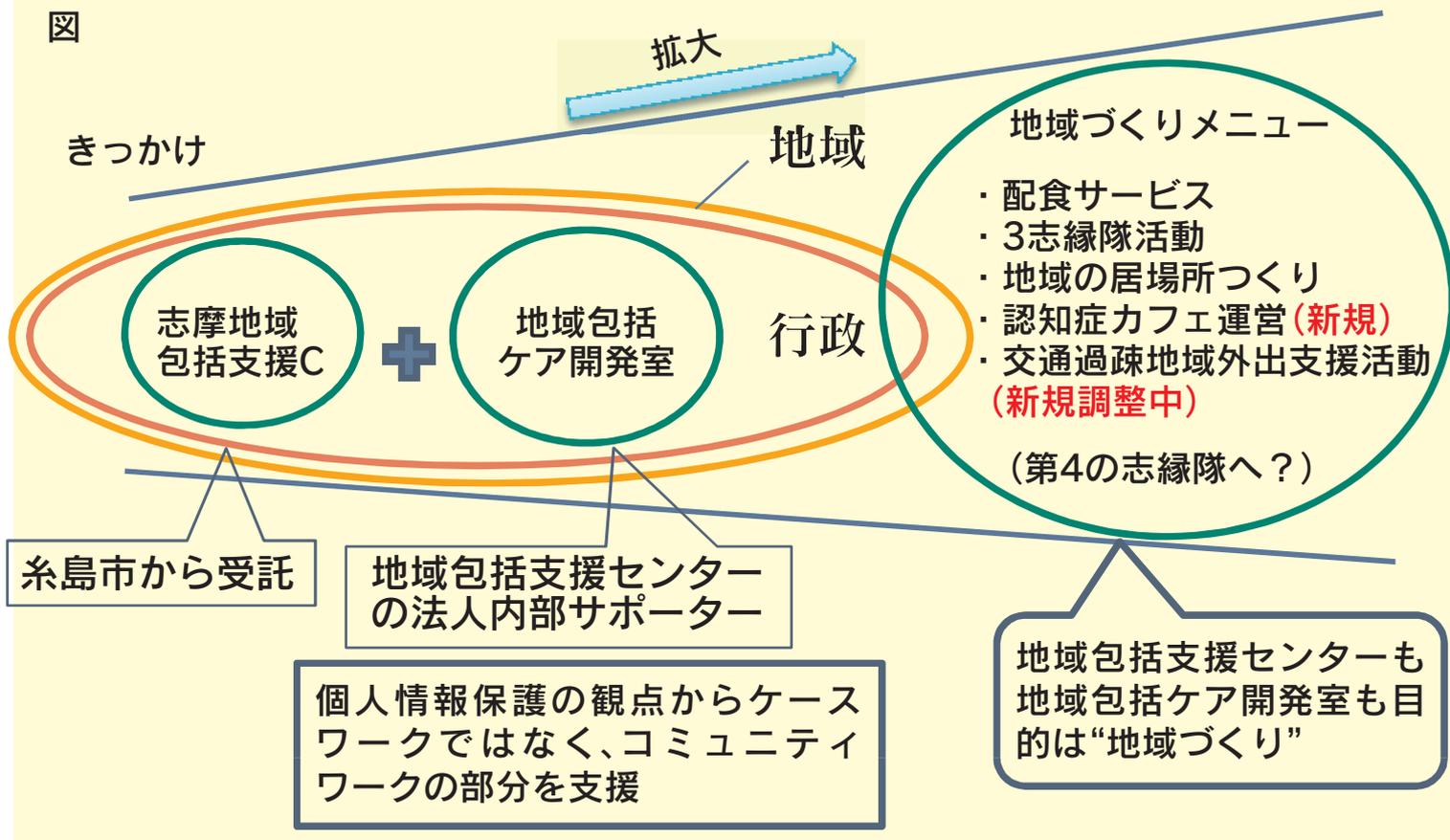


次年度の事業の骨格が固まりつつあります。その中のひとつ、社会貢献活動の概要です

法人ビジョン ～ OUT THERE ITOSHIMA

“志摩園はもっと外に出よう 地域の中にいよう 個性を発揮しよう”

図



- ◆ 地域づくりのメニューは今後も増えていきます。また、スクラップアンドビルドすることもあるでしょう。今、解決が必要なことから、5年、10年後に浮かび上がってくるかもしれない課題まで予測して行動します。
- ◆ 活動が活発化するほど **地域** の枠が拡大していくと考えています。
- ◆ 地域貢献活動は志摩会独自の地域密着型取組みと今後、各種団体などと連携して取り組む公益活動にも参加する予定です。

地域づくりの個別メニュー

① 配食サービス



平成18年度から事業開始。糸島市になってからも志摩地域の配食を担当しています。
年中無休で昼食と夕食をお宅に届けます。安否確認もします。

ある日のお昼のメニュー、とんこつラーメン。スープはノーマルと減塩の2種類を用意してお宅で注ぎます。うどんやチャンポンも人気です。

② 3志縁隊活動 平成24年度から法人の職員有志で活動開始。

- (1) **オレンジ志縁隊** ～地域の皆様に認知症に対する正しい理解を広めることで、「認知症になっても安心して暮らせる町」の実現を目指して活動しています。最近では認知症サポーター養成研修の依頼が増えています。
- (2) **げんき志縁隊** ～志摩地区の「ふれあい生きいきサロン」の支援を中心に活動しています。志摩会各事業所の専門職が関り、その「強み」を発揮します。
- (3) **せいかつ志縁隊** ～配食サービスに合わせて、安否確認や見守り、緊急時の対応を行うほか、日常的な生活全般の‘変化’にも注意を払います。

③ 地域の居場所づくり ～地域包括支援センターの地域課題の吸い上げをとおして、民生委員やシニアクラブ等と連携して開設、運営支援します

たまり場 桜野	市の元気アップ事業の“卒業”後の居場所として、民生委員と協働して開設。PT指導の予防体操が好評。 桜野自治会館 第1、第3木曜 13:30～15:30	姫島 茶所	姫島における最初の地域ケア会議で“気兼ねなく集える場所がほしい”とのご意見があったことがきっかけです。 姫島福祉センターはまゆう 月1回 13:00～16:00
------------	---	----------	--

④ 認知症カフェの運営

地域包括ケアの中で認知症ケアはどうなっているのか、いくのか…認知症を生きる人たちから見た地域包括ケアの視点を私たちが認知症の人やその家族から教えてもらわなければならないと思いました。

その出会いの場が おこもりカフェ になればいいと期待しています。

在宅介護が限界になってから相談を受けることがこれまでの認知症介護の多くのパターンでしたが、出会いのタイミングを早くすることで皆さんの希望にそった多様な生活ができるようお手伝いをします。

⑤ お出かけ志縁隊（仮称） … 現在研究中であり、“地域づくり”の試金石

人口減少



商店の廃業、撤退、公共交通機関の路線縮減



買物困難

高齢者の増加



運転免許証の返納



本人と家族の移動手段の喪失

障害をお持ちの方にとっても高齢者にとっても自分の都合やスケジュールに合わせて、自由に移動も外出もできることは当たり前の権利です。しかし、実際はそれらが環境や個人の要因が絡み合って自分だけでは解決が難しい問題になっています。

今後一人世帯や高齢夫婦世帯が増加していくであろう状況を考えれば、個人だけの問題ではなく、地域全体の課題として受け止める必要があります。

“コンパクトシティ”化は是としても、そこに至るまでは踏ん張らなければなりません。

志摩会としては、既存の事業や制度の活用、新たな資源開発と資源間連携などに取組んで効率かつ効果的な活動として実現を目指します。

平成27年度第2回 入所検討委員会の状況 (平成27年11月11日開催)

要介護度別申込者の推移

(名)

	H26.4.1	H26.10.1	➡	H27.4.1	H27.10.1	
要介護5	29	27	制度改定	20	17	今年度から入所条件が変更されて以降は大きな変化はありません。 特列入所対象者は36名です。
要介護4	49	43		39	32	
要介護3	53	48		45	59	
要介護2	53	49		24	22	
要介護1	50	52		14	14	
計	234	219		142	144	

入所待機場所別介護度(H27.10.1現在)

	在宅	医療機関	老健	特養	G・H	有料	養護	その他
要介護5	3	4	6	1	3	0	0	0
要介護4	11	7	12	1	1	0	0	0
要介護3	18	6	27	0	2	4	0	2
要介護2	11	0	9	0	0	1	1	0
要介護1	5	0	7	0	1	1	0	0
計	48	17	61	2	7	6	1	2

(G・H=グループホーム、有料=有料老人ホーム、養護=養護老人ホーム)

◆ 志摩会の特養を中心とした地域包括ケアと自立支援の考え方 ◆

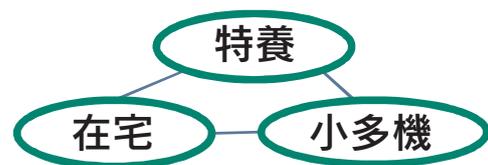
今回も要介護1、2の方の入所申込を25%受付けています。いわゆる特列入所が認められた理由としては、「認知症であって、日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られる」という要件に該当が最も多くなっています。

認知症があって要介護1、2の方は身体機能は維持されていることが一般的で、このことから、お家での介護は相当に困難であるだろうと想像できます。

認知症の介護は「大変な人がいるのではなく、大変な時期があるだけ」と言われることがあります。

だから志摩園は、要介護1、2の方が入所時期において不利益を被らないよう配慮して待機者名簿を作っています。

要介護1、2の在宅では介護が難しい期間を老人ホームでケアを受けて、落ち着いたら在宅に戻っていただく …



※状態に合わせてそれぞれを行ったり来たりできる

(地域全体では、さらにサービスの選択肢は増える)

小多機=小規模多機能型居宅介護事業所

『特養の入所待機者ゼロを目指す』…以前紹介しました。入所者の心身機能を改善・向上して、在宅に戻すことに加えて、要介護1、2の在宅介護が困難な時期を中心に施設を利用して、安定すれば再び地域に戻す…共に待機者を減らす効果を発揮します。

おこもり カフェ岐志浜 リポート



11月7日のおこもりカフェ内覧会は地域住民や関係者の方々が大勢訪れてくださいました。

これは、認知症カフェだけではなく、介護全般、閉じこもり、独居、ボランティア活動など他人事ではなく、自分自身のこととして受け止めておられる皆様の関心の強さの表れと私たちも感度を上げることができましたし、法人の介護保険サービス事業所の開設とは一味違った、自然に住民の皆様が関わってくれたことがとても楽しく、新鮮でした。

～ ボランティアがキャッチした訪問者皆様のお声 ～

- ・歩いて来れる場所にこんなところできてよかった
- ・ひとり暮らしで寂しい自分にはちょうどよい
- ・演奏会はちょっと(時間が長くて)疲れた(ご家族と一緒に参加されたご本人)
- ・トイレの使い勝手をどうにかしてほしい

トイレの使い辛さは私たちも認識していました。2回目の開催前にトイレの改修工事を完了しています。



(改修後)



11月21日 第2回



ご利用者18名(男性2名女性16名)
ミニレクチャーもしっかり聴いていただけました

12月5日 第3回



ご利用者9名(男性0名女性9名)
自己紹介がてら、趣味嗜好などで歓談です

12月19日 第4回



ご利用者11名(男性0名女性11名)
もちつきイベントに子供たちも十数名参加して、大変賑やかでした

～平成27年の試行カフェを終えて～

試行期間を設定して正解でした。頭の中でイメージしていたこととは違っていたり、思いつきもしなかったことなどが実際にご利用者やボランティアの皆様を受け入れて教えられたり、気づかされたりすることが沢山ありました。調整するべきハードやソフトの部分が明確になり良かったです。

◆引津小学校4年生と交流りぽーと 続き (報告 生活相談員 柴田美穂)



▶ 9月に引津小学校に出向き、「老いていくとは」「認知症とは」の2つのテーマで講義を行いました。

その講義を基に生徒さん一人ひとりが「おじいちゃん、おばあちゃんに私たちは何ができるんだろうか」と考えてもらい、志摩園入園者と交流を図ることにしました。

▶ 2015/10/14
1回目の志摩園訪問

子供達に7つのグループに分かれてもらい、入園者の待つフロアに案内。

…子供たちも緊張していて、笑顔も少なく、声も小さい。子供たちの声掛けに返答が上手くできない入園者もいる中で、子供たちも戸惑っている様子です。

トランプをしたり、歌を歌ったり、風船バレーをしたり…事前に入園者の皆さんと一緒にやりたいと考えていたこと行ってもらいました。上手くいったこともそうでなかったこともいろいろ分かった最初の交流でした。

▶ 10/26(2回目)・11/25(3回目)

交流の機会が増す度に子供たちの表情も明るくなり、「こうすればコミュニケーションが取れる」という工夫が臨機応変に見られるようになってきました。

・正面から声掛けしても反応が薄い方に横から声掛けすると一緒に活動ができた

・黙って活動するのではなく、声を出して盛り上げていた

▶このように子供たちはしっかり入園者の一人ひとりの反応を見ながら対応しており、何とかコミュニケーションを図ろうと一生懸命な姿は、介護する側の一方的な関係になりがちな私たちの反省になりました。

▶高齢者に関する楽しさ、純粋に喜んでくれる体験は子供たちの自信になったと思います。



12月25日先生から4年1組の皆さんのお礼と感想等の作文を受領しました

2015.12.12



パナソニックシステム ネットワークス労働組合様

今年40回目の志摩園ご訪問です。田中委員長以下総勢35名の皆様が博多区から駆けつけてくれました。餅つき、大掃除から演芸まで手際の良い活動に感動です。

園内も一気に活気づきます



若手組合員の皆様も増え、午後の演芸にもそのユニークなアイデア、センスが盛り込まれ、随分時間をかけ準備されてこられたことが伝わり、志摩園職員にも良い刺激になりました。

連載
企画

いろんな職種から見た 介護の仕事

(第7回)

職員ルー



志摩会に働く170人余りの職員の皆さんに仕事や職場、仲間への思いなどを語ってもらっています ...

志摩園の男性介護職員では最高齢の48歳です！若いものにやまだ負けません



浦山 裕三

(ショートステイリーダー)

◆実は年には勝てず、体の方々にガタを感じるこの頃です。私が介護の仕事に目覚めたのは32

歳の頃でした。製造業に従事していて、突然「これからは介護の時代だ！！」と閃き4年間勤めた会社を辞め、専門学校に通い始めました。

◆実際に働き始めると理想と現実のギャップに悩むこともありましたが、現職場ではこれまでの経験を活かし、短期入所特有のご自宅での生活を踏まえながら、笑顔第一で挨拶とこまめなお声かけで安心と満足でご利用

頂けることを心掛けています。◆休日は抗メタボとリフレッシュ目的で子供と遊び、体を動かしていますが小学生の息子たちに既に体力は敵いません。

◆また、ドライブを兼ねてテレビで美味しいと紹介された店巡りをします。予算と時間に限りがあって専らB級グルメ中心です。これを機会に安くて美味しい店があれば教えて下さい。



江藤 清正

(特養 介護福祉士)

◆この仕事をするきっかけは祖父が介護が必要になり、その手伝いをしているうちに興味をもったことです。そして、

サッカーは真剣にプレーを見たいので一人でゆっくり、集中するのが好きです

ホームヘルパー2級の資格をとり、最初は派遣会社の紹介で志摩園で働くようになりました。

◆介護の仕事は初めてだった為、不安で一杯でしたが職員の方々に丁寧に教えて頂き、悩みも聞いて下さって、とても感謝しています。

◆今年5月からグループリーダーに任命されました。私は職員が働きやすい環境を作る

ことがケア向上にもつながると思いますのでそんなグループにしていきたいです。

◆趣味はサッカー観戦。W杯の年は、テレビ放映の試合は全試合録画して見ます。スペインのパスサッカーが好きで、日本もこれを目標にすればもっと強くなるはずです。元ポルトガル代表のデコ選手のファンです。



吉村 麻里子

(特養 調理員)

◆以前から料理関係の仕事に携わって知識と技術を深めたいと思っていたとき、ご縁があって志摩園を紹介していた

日々学ぶことが多く、皆様に感謝の気持ちで接して行きたいです

だき、入職5年目になりました。両親も高齢になり、けがや病気で身体のことを心配な時でもあったため、施設に関心を持ち始めたことも志摩園を希望した理由でもありました。

◆最初は仕事を覚える事に必死で緊張と焦りで全く余裕がなく、あっという間に時間が過ぎました。職員の皆さんに何度も助けられ、困難な状況でも的

確な判断と指導を頂き乗り越えられました。

◆今後、認知症や介護を身近に経験するかもしれません。そのときは家族、友人、職場の皆さんに相談し、助言があれば自分自身に小さな自信が付くことを願っています。いつも前向きな考え、教えがあることを幸福に思い、志摩園の一員として進みたい。

1月4日志摩園グループ年賀式



《2月、3月の予定》

- 2月 6日(土) おこもりカフェ岐志浜
 2月 9日(火) げんき志縁隊(大町サロン)
 2月13日(土) げんき志縁隊(仲良会サロン)
 2月20日(土) おこもりカフェ岐志浜
 3月 5日(土) おこもりカフェ岐志浜

Info

12月24日 福岡雙葉中学校
吹奏楽部の皆様の訪問演奏会

午前中の終業式を終えて、25名の生徒さんが志摩園でクリスマスソングほかを披露して下さいました。丁寧なクリスマスカードを戴き、喜びも一入、ありがとうございました。

志摩園伝統

元日のお昼はお雑煮です

貝だくさんに喜ばれ、お味もご満足



【編集後記】 冬至も過ぎればその年の振り返りと新しい年の構想を同時に練り上げます。

気持ちも「一陽来復」モードに切換えです。

2015年は「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」の一年でありました。

実際は、成功するときには、不思議な成功ではなく、周到に準備することで成るべくして為すよう、コントロールできることが多いのです。しかし、失敗は日常の中に失敗する要素があって失敗しています。

リスクマネジメントの基本として、「ハインリッヒの法則」が介護の研修でもよく引用されます。

この法則は、1件の重大事故の背景には29件の軽微な事故があり、さらに軽微な事故の背景には300件のヒヤリ・ハット(事故には至らなかったがヒヤリとした、ハットとした)事例があるという法則です。従って、重大な事故は軽微な事故を防げば発生しないし、軽微な事故はヒヤリ・ハットの経験を活かせば回避できるということになります。

失敗の原因に、このヒヤリ・ハットが意識されていないことがあります。これを個人のレベルでも、組織全体でも実践できるようになるためには …

人は違っても同じミスが繰り返されるという連鎖を改善するアクションが必要です。

それは(人的、物的)環境に対応する新たな仕組みを作ることが求められています。

信頼、信用されるリーダーは言葉の重みで、人を説得することが大事 とはノム(野村克也)さんのお言葉です。

2016年も言葉を大切に、自然体で発信していきたいと思っています。 (A・K)